

学校給食に関するアンケート調査結果（概要）について（報告）

1 調査目的等

(1) 調査目的

食育の推進及び学校給食の提供体制を検討する上で、児童生徒の食生活や給食に関する実態を把握することを目的に調査を行いました。

(2) 調査対象・方法

ア 児童生徒 呉市立小学校の6年生児童及び呉市立中学校2年生生徒を対象にクラスごとに実施

イ 保護者 アの児童生徒の保護者に加え、デリバリー方式実施校の中学校1年生及び3年生の保護者を対象に、児童生徒を通じて配布・回収

ウ 教職員 全ての教職員を対象に配布・回収

(3) 調査内容

給食の評価、希望する給食の提供方法、デリバリー給食及び給食時間の四つの項目について調査をしました。

(4) 調査時期

令和元年7月8日（月）～19日（金）

(5) 対象数・回収率

校種	調査実施校数〔校〕		対象数〔人〕			回答数〔人〕（回収率）		
			児童生徒	保護者	教職員	児童生徒	保護者	教職員
小学校	自校調理校	29	1,672	1,672	692	1,616(96.7%)	1,462(87.4%)	645(93.2%)
	共同調理場受配校	7	113	113	88	111(98.2%)	106(93.8%)	84(95.5%)
	小 計	36	1,785	1,785	780	1,727(96.8%)	1,569(87.9%)	729(93.5%)
中学校	デリバリー実施校	16	1,378	4,056	335	1,279(92.8%)	2,861(70.5%)	297(88.7%)
	共同調理場受配校※	9	228	228	125	220(96.5%)	198(86.8%)	117(93.6%)
	自校調理校(安浦)	1	79	79	22	74(93.7%)	55(69.6%)	22(100%)
	小 計	26	1,685	4,363	482	1,573(93.4%)	3,114(71.4%)	436(90.5%)
合 計	62	3,470	6,148	1,262	3,300(95.1%)	4,683(76.2%)	1,165(92.3%)	

※川尻中学校は、川尻小学校で調理した給食を中学校に運んでいるため、共同調理場受配校でカウント

2 給食の評価

(1) 「味」「温度」「献立」「量」について

ア 児童・生徒

「味」「温度」「メニュー(献立)」の各項目について、「よい」又は「ふつう」と答えた児童・生徒の割合が、小学校及び中学校(自校調理校・共同調理場受配校)では95%を超えています。

また「味」「温度」については、デリバリー給食実施校で「よい」又は「ふつう」と答えた生徒の割合がそれぞれ6割程度にとどまる結果となり、小学校及び中学校(自校調理校・共同調理場受配校)より評価が低くなっています。

図1 味(児童生徒) 計:2,451人

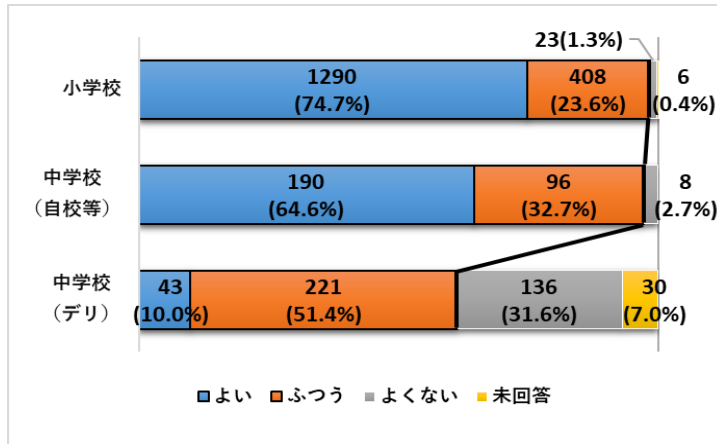


図2 温度(児童生徒) 計:2,451人

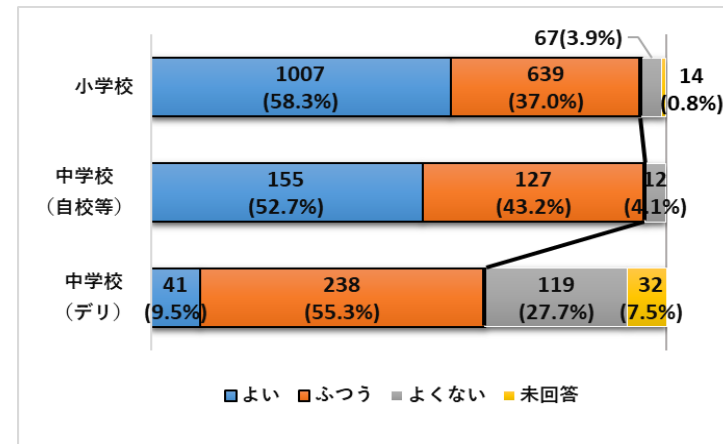


図3 献立(児童生徒) 計:2,451人

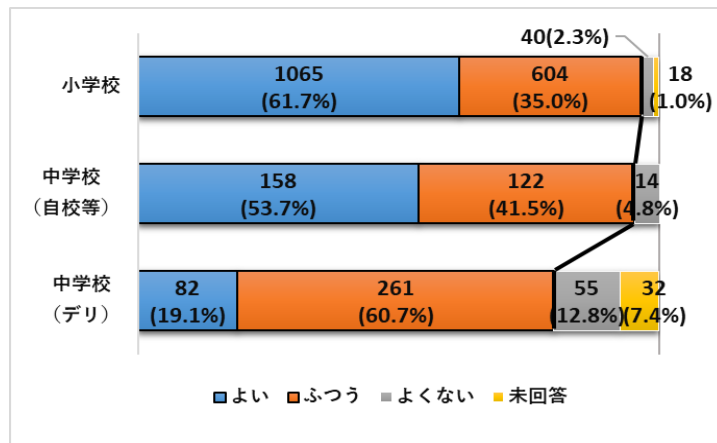
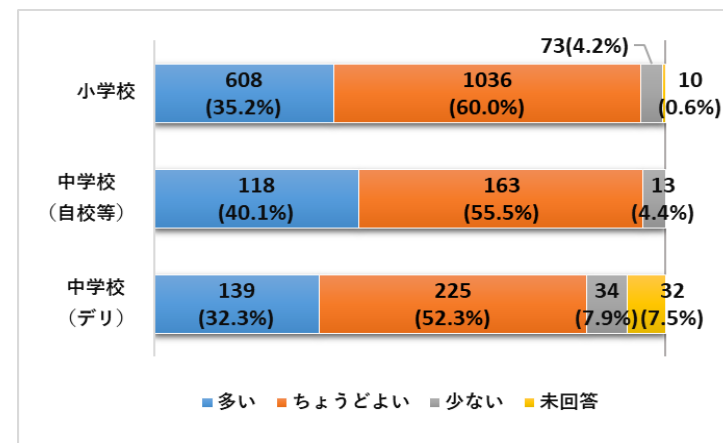


図4 量(児童生徒) 計:2,451人



イ 教職員

「味」「温度」「メニュー(献立)」の各項目について、「よい」又は「ふつう」と答えた教職員の割合が、児童・生徒と同様な結果となっています。「味」については、デリバリー給食実施校で「よい」又は「ふつう」と答えた教職員の割合は7割程度となり、生徒よりも評価が高くなっています。「量」については、デリバリー給食実施校で「ちょうどよい」という評価が72.4%と自校調理校・共同調理場受配校より高くなっています。

図5 味(教職員) 計:1,165人

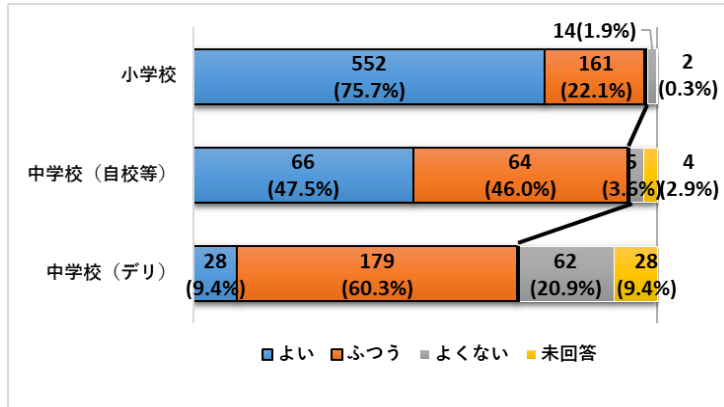


図6 温度(教職員) 計:1,165人

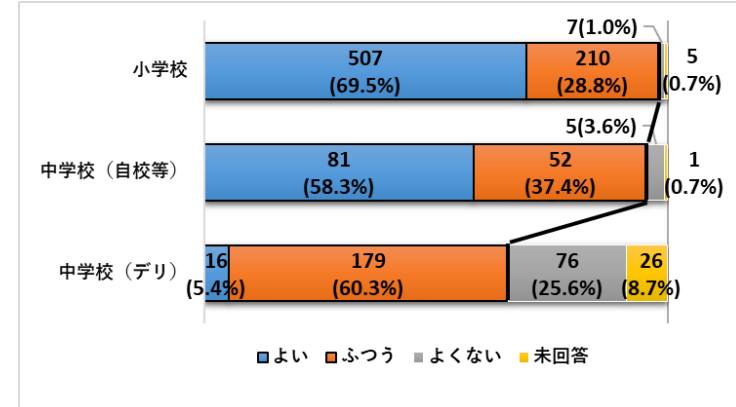


図7 献立(教職員) 計:1,165人

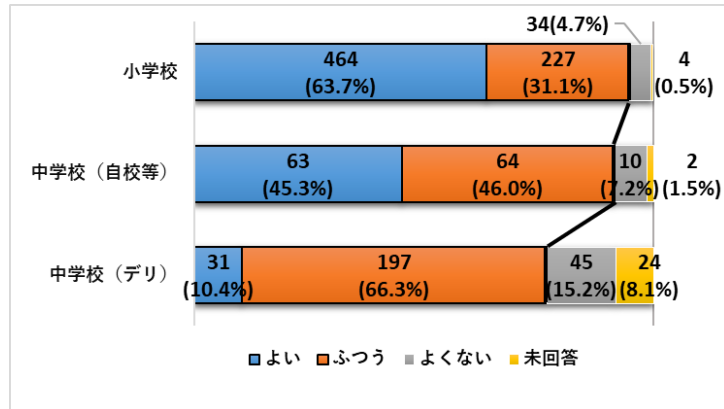
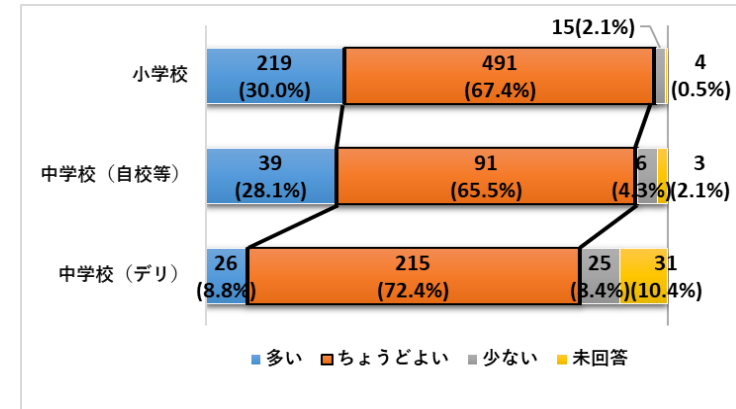


図8 量(教職員) 計:1,165人



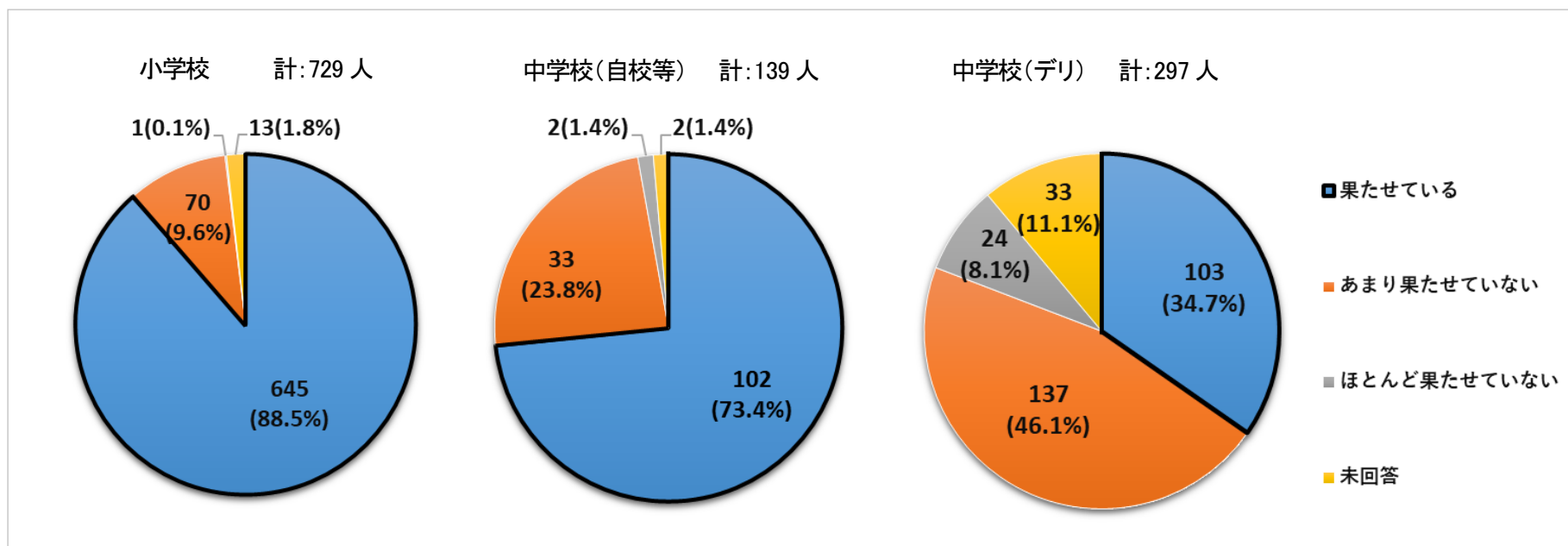
(2) 食育における役割

現在の給食が学校給食における食育の役割を「果たしている」と答えた教職員は、小学校では88.5%、中学校（自校調理校・共同調理場受配校）では73.4%と高い割合となっているのに対し、デリバリー給食実施校では34.7%にとどまっております、大きな差が見られます。

また、デリバリー給食実施校では、「あまり果たせていない」及び「ほとんど果たせていない」と答えた教職員が54.2%となり、半数を超える結果となっています。

図9 食育における役割(教職員)

計:1,165人



3 希望する給食の提供方法等

(1) 児童・生徒・教職員の希望 (中学校給食の提供方式)

ア 小学校児童

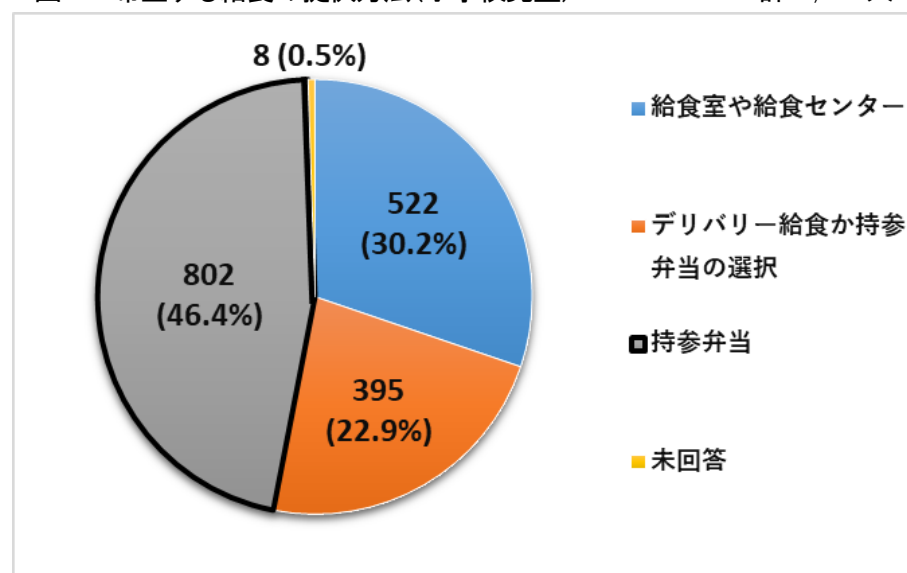
小学校全体では、「給食室や給食センター」が30.2%、「デリバリー給食か持参弁当の選択」が22.9%、「持参弁当」が46.4%と、持参弁当を希望する小学校児童が一番多い結果となっています。

小学校児童が「給食室や給食センター」を選んだ主な理由としては、「あたたかい給食が食べられるから」、「家庭で弁当を作ってもらわないといけないから」となっています。

「デリバリー給食か持参弁当の選択」を選んだ主な理由としては、「持参弁当とのどちらかを選べる自由があった方がいいから」、「食器に盛り付けてあり、給食を盛り付ける手間がいないから」となっています。

図10 希望する給食の提供方法(小学校児童)

計:1,727人



イ 中学校生徒

自校調理校・共同調理場受配校では「給食室や給食センター」が63.6%、「デリバリー給食か持参弁当の選択」が18.4%、「持参弁当」が18.0%という結果になっています。デリバリー給食実施校では「給食室や給食センター」が34.6%、「デリバリー給食か持参弁当の選択」が33.0%、「持参弁当」が30.6%となり、同程度の割合となっています。

中学校生徒が「給食室や給食センター」を選んだ主な理由としては、「あたたかい給食が食べられるから」、「家庭で弁当を作ってもらわないといけないから」となっています。

「デリバリー給食か持参弁当の選択」を選んだ主な理由としては、「持参弁当とのどちらかを選べる自由があった方がいいから」、「食器に盛り付けてあり、給食を盛り付ける手間がいないから」となっています。

図11 希望する給食の提供方法(自校等中学校) 計:294人

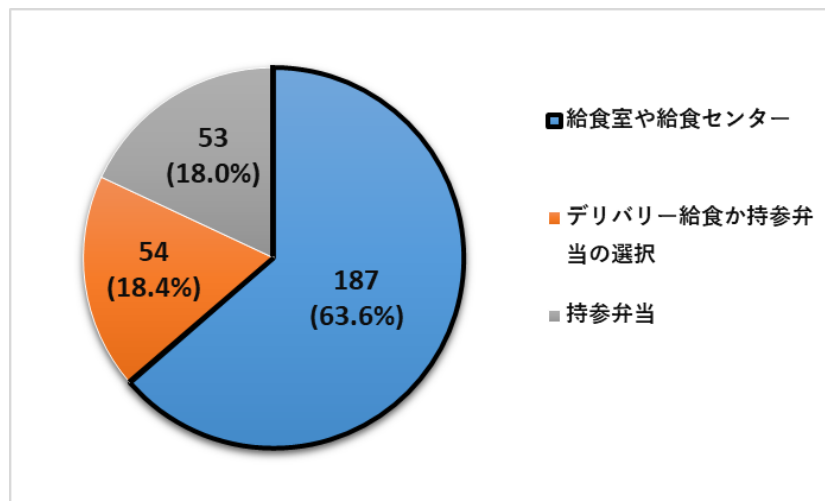
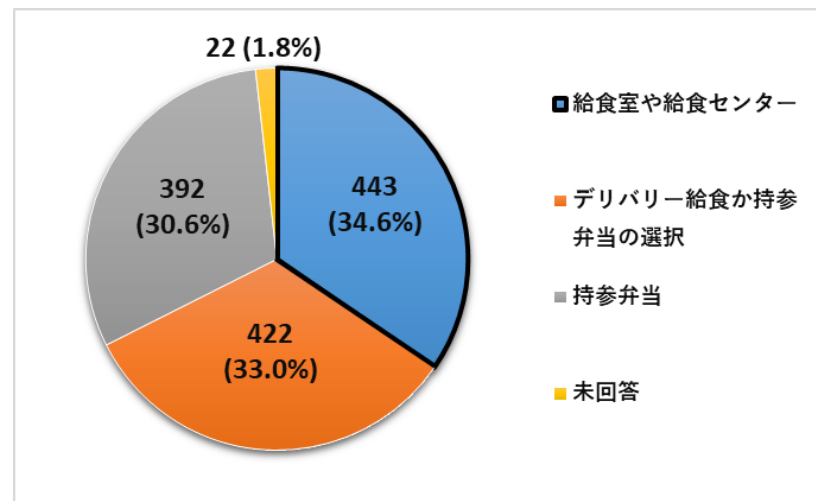


図12 希望する給食の提供方法(デリ実施中学校) 計:1,279人



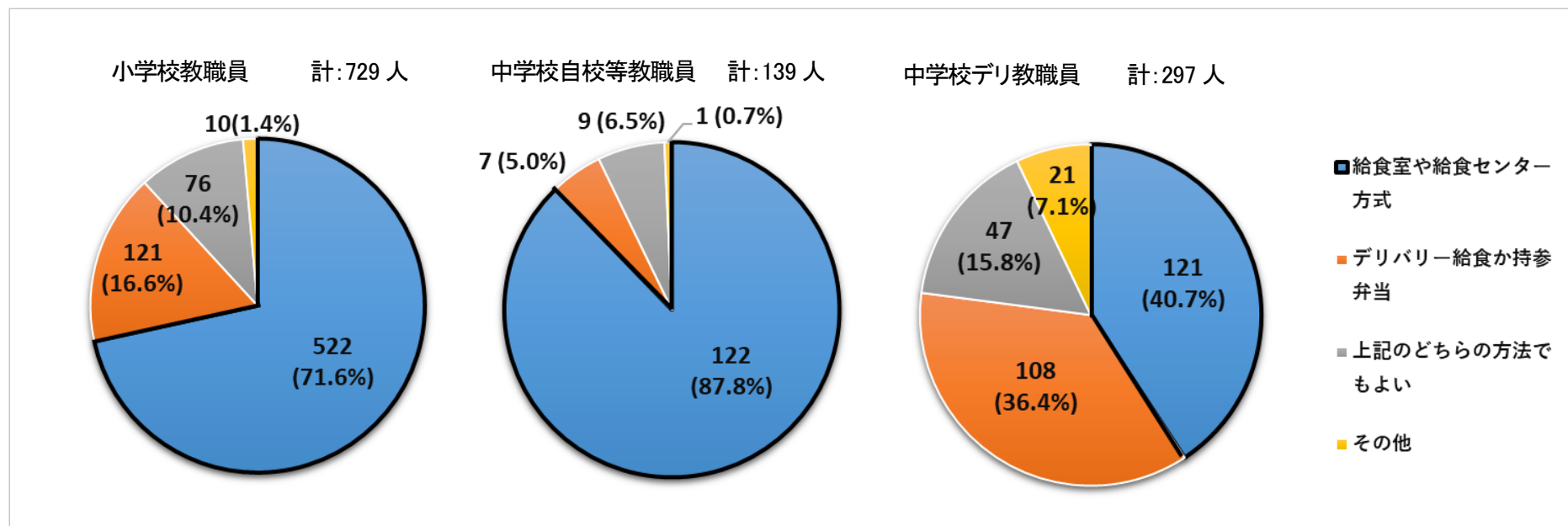
ウ 教職員

教職員は、「給食室や給食センター」は、小学校では71.6%、中学校の自校調理校・共同調理場受配校では87.8%と高く、デリバリー給食実施校では40.7%と他に比べて低くなっています。一方で、デリバリー給食実施校では、「デリバリー給食か持参弁当の選択」が36.4%と高くなっています。

教職員が「給食室や給食センター」を選んだ主な理由としては、「多様な献立が提供され、適切な栄養摂取ができるから」、「児童生徒全員が同じ給食を食べることで、食育の効果がより期待できるから」となっています。

「デリバリー給食か持参弁当の選択」を選んだ主な理由としては、「家庭や児童生徒の状況に応じて選ぶことができるから」、「給食室や給食センターの場合、配膳等に時間がかかり、給食時間の確保などに課題があるから」となっています。

図13 希望する給食の提供方法



(2) 保護者の希望 (中学校給食の提供方式)

保護者は、「給食室や給食センター」が、小学校では89.5%、中学校の自校調理校・共同調理場受配校では94.1%となっており、デリバリー給食実施校においても78.6%と高い割合となっています。

「給食室や給食センター」を選んだ理由としては、「多彩な献立が提供され、適切な栄養摂取ができるから」が44.2%、「子どもに温かい給食を食べさせることができるから」が33.7%と、この二つの理由が大半を占めています。

また、保護者が、学校給食で重視又は期待をする点の上位3位は、「栄養バランスのよさ」「安全・安心(衛生管理・食材等)」「おいしさ」となっています。

図14 希望する給食の提供方法(保護者)

計:4,683人

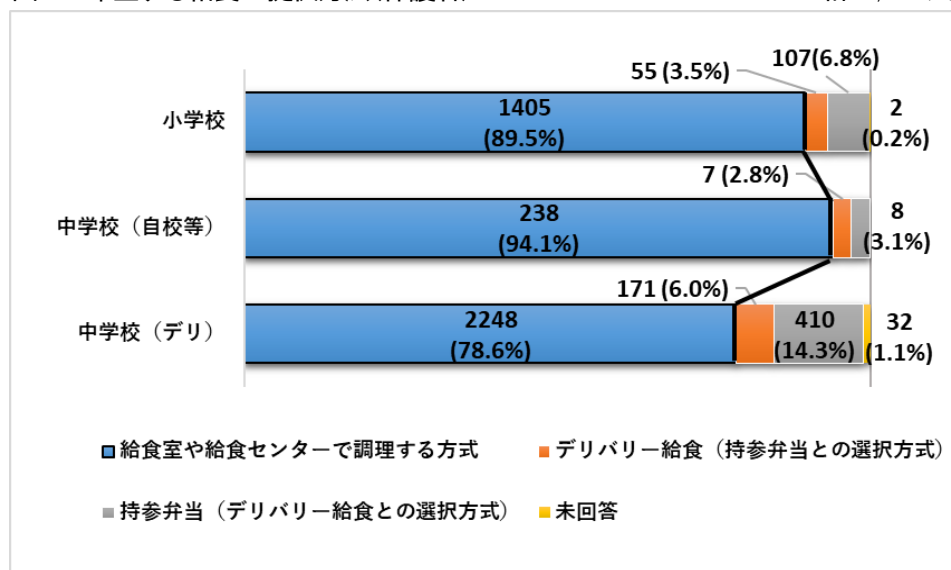
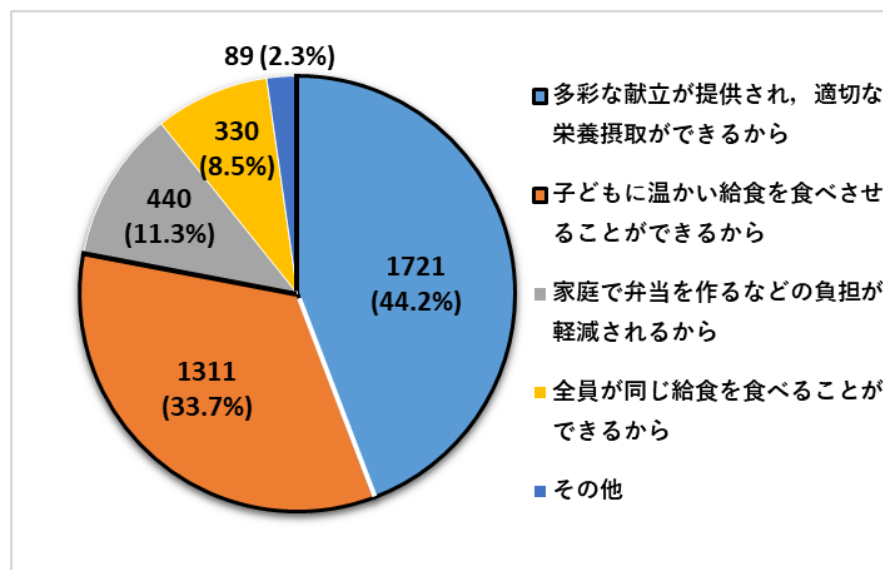


図15 「給食室や給食センター」を選んだ理由

計:3,891人



4 デリバリー給食について

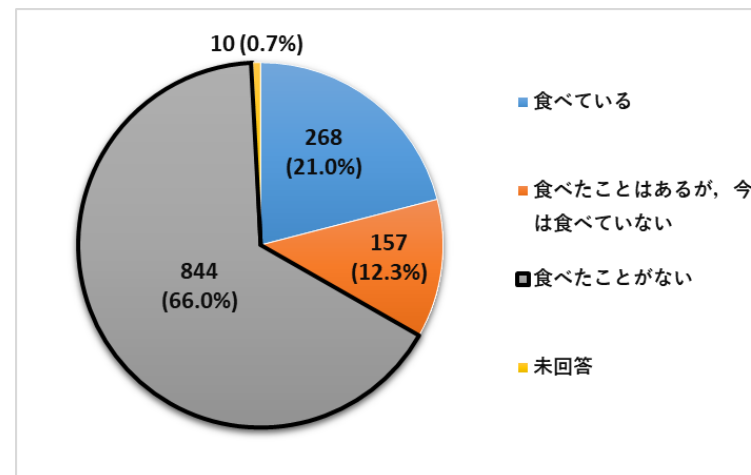
(1) 喫食状況

デリバリー給食実施校でデリバリー給食を「食べている」生徒は21.0%で、「食べたことはあるが、今は食べていない」は12.3%、「食べたことがない」は66.0%であり、8割近くの生徒がデリバリー給食を利用していない状況となっています。

デリバリー給食の利用者を増やすための方法としては、「献立を選べるようにする」、「おかずを温かくする」、「フルーツなどのデザートを増やす」が主な意見として上がっています。

図16 デリバリー給食の喫食状況

計:1,279人



(2) デリバリー給食を利用しない理由

利用しない理由は、生徒では「家で弁当を作ってもらうから」が740人(42.8%)と最も多く、続いて「おいしくない又はおいしそうでないから」が387人(22.4%)、「おかずが冷たいから」が152人(8.8%)となっています。

保護者では、「おいしくない又はおいしそうでないから」が1,000人(25.9%)、「家庭の弁当が好きだから」が985人(25.5%)と同程度で最も多く、続いて「兄弟など家族の弁当を作るから」が801人(20.8%)となっています。

図17 デリバリー給食を利用しない理由;生徒(複数回答) 計:1,729回答



図18 デリバリー給食を利用しない理由;保護者(複数回答) 計:3,860回答



5 給食時間について

給食時間について、「給食時間が短く給食を食べきれないことがある」と回答した児童生徒は、小学校では18.6％、中学校では47.8％となっています。「食事をする時間は何分あれば給食を食べられますか（準備・片付けを除いた時間）」については、小学校、中学校とも20分が多い結果となっています。また、中学校保護者の自由意見の中にも、給食時間が短いとの意見が、給食、持参弁当ともに見られます。

図19 給食時間について(児童生徒)

計:3,300人

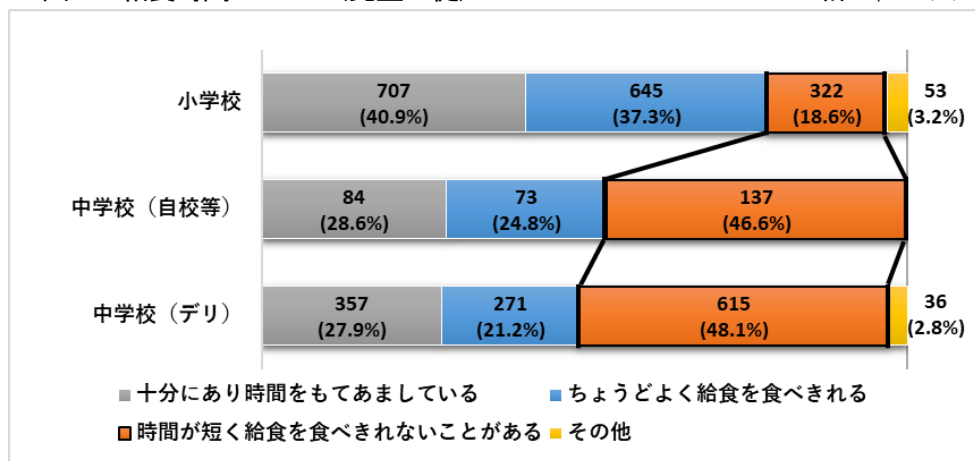
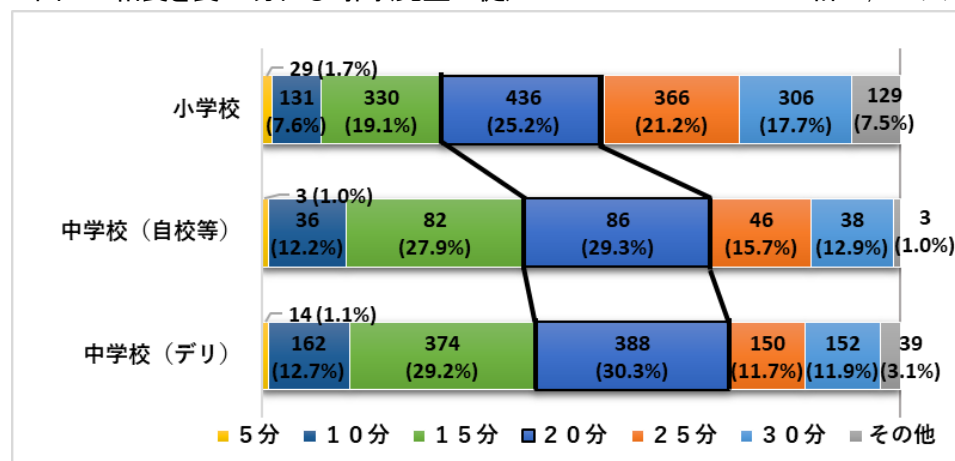


図20 給食を食べ切れる時間(児童生徒)

計:3,300人



6 まとめ

(1) 小学校児童

「味」「温度」「献立」の各項目について、小学校児童は、中学校生徒よりも給食の評価が高くなっていました。また、自由記述欄にも「給食が好き」との記述が数多くあり、現在の給食に満足している状況が伺えました。

(2) 中学校生徒

中学校生徒のうち、自校調理校・共同調理場受配校では現在の給食の提供方式に満足していることが伺いましたが、デリバリー給食実施校では、実際にデリバリー給食を食べたことがない生徒は6割を超えており、食べる前からデリバリー給食が敬遠されていることが伺えました。

(3) 教職員

デリバリー給食実施校では、給食と持参弁当が混在することで、食育の役割を果たしづらい現状があることが伺えました。また、「給食時間が短く給食を食べきれないことがある」との回答が半数近くあり、給食時間の確保にも課題が見られました。

(4) 保護者

8割を超える保護者が、給食室や給食センター方式の給食を望む結果となりました。また、自由記述欄に「弁当作りが負担である」との記述も多く、中学校給食においても全員喫食の給食を望んでいることが伺えました。

上記の結果を参考として、今後の学校給食について検討します。